

美東(女子)と神森(男子)優勝

ハンドボール

県中学春季

ハンドボールの第46回県
中学校春季選手権最終日は
30日、県総合運動公園体育

館で行われ、女子は美東が
仲西を23-16で下して、5
年ぶり2度目の頂点に立つ
た。男子は神森が37-24で
仲西を破って、4年連続16
度目の優勝を果たした。

浦	添	28	23	宮	里	添	37	1621	1311	24	仲
美	東	25	17	浦	神	森	37	1621	1311	24	西
添					神	森	37	1621	1311	24	西



美東―仲西 後半、美東の金城菜々子が中央のディフェンスを突破し17点目のシュートを決める。県総合運動公園体育館(古謝克公撮影)

仲 西 31-16 東風平 東風平 21-17 浦 添 美 東 23-14 8 16 仲 西

美東、猛攻をかわす

3月に全国制覇を果たした美東が、1月の浦添市長杯決勝のリベンジに燃える仲西をはね返した。

浦添市長杯は延長にもつれ込む接戦だった。この時辛うじて仲西に勝利した経験を踏まえ、平良徳彦監督は「リードしても気を緩めず、同点のつもりで試合を運び」と選手たちに伝えていた。

8で折り返し。しかし、後半の出だして仲西の猛攻を受けて一時は4点差に詰められた。それでも美東には「自信」があった。「慌てることなく自分たちのやることをやる」と出せば結果は

「自信」があった。「慌てることなく自分たちのやることをやる」と出せば結果は

「自信」があった。「慌てることなく自分たちのやることをやる」と出せば結果は

神森、個々の力光る

ことし3月に全国の頂点に立った男子の神森は個々の力で得点を量産。伊禮雅輝主将は試合後、「守りから速攻がうまくなった」とうなずいた。

相手ゴール前で隙を突くパス回しが随所に見られ、決定力も高かった。主導権を握り続け、終わってみれば仲西に13点差をつけた。

「速攻からパスをつなぐ練習をしてきた」と友利彬彦監督。今大会を通じてメンバー全員が得点したことに満足そうな表情を浮かべた。

チームは今夏、女子・美東と一気に点差を広げられる東同様に再びの全国制覇を目指す。伊禮主将は「もっとさらに磨きをかけ、夏にま

た勝てるよう練習に取り組みたい」と意気込んだ。

女子優勝の美東



神森―仲西 後半、神森の親泊寛輝が左サイドから27点目のシュートを決める



男子優勝の神森

